

34 馬術競技

1 競技の特性

この競技の魅力はいろいろあるが、中でも男女が同じ条件で競えることや他の競技者との接触が少ない、ノンコンタクト競技でもあり、馬という「生物」が競技用具になる。

また、騎乗するだけでも相当なエネルギーが消費され、そのうえ順応性が高いこの生き物の管理方法や操作方法も身につける事になる。最近、県内でも徐々に馬に関する情報や施設も多くなりつつあるが、この競技をはじめめる年代は高校生が大半を占めており、それまでの犬・猫のペットの経験は馬にはあまり役に立たない。自分の足を踏まれたり急に走られるなど恐る恐る接していた生物に時間と共に自信が芽生えるようになり、やがては颯爽と風を切って走る楽しさや少しの勇気を持って障害に果敢に挑戦している新しい自分を発見するようになっていく。

2 事故・防止対策

(1) 施設・設備・用具

予想される事故・傷害の原因	傷害例	対 策
・厩舎に関すること。	・打 撲	・馬房の中に敷き詰める稲ワラや木くずなどの管理作業に使うフォークなどの使い方に早く慣れる。 ・人に向かって咬むとか蹴るなど実際にその行為に及ぶ悪癖馬は経験者が担当するか若しくは未然防止のため早期に退厩させる。
	・咬 傷	・特に高能力馬の悪癖が部員によって発生したと思われるときは、別な施設で再調教をする。
	・刺し傷	・乾草や濃厚飼料の調整・保管時に、周囲に注意しながら行動すること。
・設備に関すること。	・切り傷	・練習場の周囲に張り巡らした木柵に使われている釘や鋭利に破損している場所、また頻度が高い出入り口の金具などのメンテナンスに気を配る。
	・刺し傷	・練習時に使う横木や衝立障害物のメンテナンス。特に折れた横木は練習場内から早期に撤去する。
	・打 撲	・これらの補修作業には金槌や電動ノコギリなどが使われることが多い。部員が興味や関心が高い場合は、指導者が安全を確保して実行する。
・用具に関すること。	・皮革の管理不備による傷害	・馬には多くの道具が使用されます。それらは鞍に代表されるように「革製」の道具の占める割合が高い。人間と馬の安全を保つために皮革繊維の持つ特性が生かされているからである。ただこの用具は「中心部」の油成分が切れると簡単に切れやすくなる脆さも持っている。そのため定期的管理がかかせない。
	・試合用具が関係する傷害	・試合は「革長靴」と決められている。この靴は決して安いものではない。そのため高校生の大半は中古品などを手に入れて使っている。その場合、大きいと捻挫、小さいと擦過傷などサイズが原因と思う傷害をよく見る。これも平成20年の秋から「合成皮革」の格安品が市場にでてきた。従来品よりも強度や品質も数段向上しているから一考の価値がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・馬匹（乗用馬）が関係する傷害 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の多くは、競技会を引退した老齢馬や訓練も行き届いていない若馬で練習や競技会に出場する機会が多く馬匹の疲れや未熟から事故を誘発する。この危険を防ぐには、馬匹の「質」を高めることである。それには管理費などの経済的負担や能力を維持するための高い技術が求められる。これらが解決すれば「騎乗中」の事故を激減することができる。
--	---	--

(2) 活動内容

予想される事故・傷害の発生状況	傷害例	対 策
<ul style="list-style-type: none"> ・落馬が原因で背部・頭部・腰部を強く打つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部を強く打つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・必ずヘルメットを着帽する。特に初心者が一人で騎乗練習を始めた頃に、暴走されたり急に方向を変えられたときに落馬事故が起こる。初心者には、安心できる馬匹を提供して練習する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・背部を強く打つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・初心者には落馬練習を行う。落馬にあっても、両手の手綱を決して離さない練習ができると、地上に叩きつけられても痛みが大幅に軽減される。 ・体を起こし常に前を見る乗馬姿勢を心がける。
	<ul style="list-style-type: none"> ・骨盤骨折 	<ul style="list-style-type: none"> ・手綱を適度の長さを保持し決して離さない。 ・サドルホルダーを装着する。
<ul style="list-style-type: none"> ・腹部を咬まれる ・足を踏まれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・咬 傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・馬匹は弱い部員を集中的に咬むことが多い。攻撃は一瞬であるから馬匹から目を離さない。また攻撃されたら、すかさず厳しい指導を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・打 撲 	<ul style="list-style-type: none"> ・馬匹の脚や馬体などの手入れ、また一緒に並んで歩いているときに指先を踏まれる。初心者はつま先に鉄が入った靴（鋼製先芯入り）を使用することで軽減できる。また、踏まれたら無理に引かずに、体重をかけて馬体を反対側に押しやる。
<ul style="list-style-type: none"> ・手綱・鍔革の切断で馬匹に走られ柵に足をぶつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・打 撲 	<ul style="list-style-type: none"> ・保革油やサドルソープを定期的を使用して管理する。このときに破損状況によって新品と交換もしくは自前で修理をする。
<ul style="list-style-type: none"> ・金属製品の誤った取り扱いから転倒する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽い打撲 	<ul style="list-style-type: none"> ・制御装置の一つである「ハミ」を誤った位置で装着し、馬匹がやがて苦痛に耐えかねて上がった時に人が後に投げ出された。正規の装着を守る事を徹底する。
<ul style="list-style-type: none"> ・横転して投げ出された ・フォークを相手の足に刺す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・足部損傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・乾いた馬場で砂も薄いときに横転しやすい。不思議なもので同じ場所で発生しやすい。砂を厚く入れ替える。
<ul style="list-style-type: none"> ・検温時に足を踏まれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・足部打撲 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の不慣れが原因。互いに一定の間隔を取って活動する。これら各種作業用具の安全な使用方法を指導する。
<ul style="list-style-type: none"> ・馬の降車時に手に擦過傷を負う 	<ul style="list-style-type: none"> ・擦過傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・馬の後から近づかず、横から馬の体に触り安心感を与えながら行う。また、体温計はすべりをよくしてから使う。 ・馬運車から馬を降ろす場合、馬が出口に頭を向けた状態のまま出口を開けると飛び出して危険である。馬を落ち着かせてからゆっくりと降ろす。口腔に鉄製のチェーンを入れて制御する。

3 事故防止のためのチェックリスト

<p>施設 設備 用具</p>	<p>厩舎内は安全か 通路や蹄洗場に隆起はないか 各種作業用具が指定された場所に保管されよく整備されているか 練習馬場や用具は安全か 防護柵や練習場周囲に危険な箇所がないか 未熟な部員に対し安全な練習場を確保しているか 皮革製品に皮革油などを使って十分な手入れが施されているか 馬匹が練習にあった能力を持っているか。</p>
<p>活動内容</p>	<p>馬装用品に破損や欠陥はないか 体調の悪い選手、けがや意欲が低下している選手はいないか 水分補給や休憩は適切にとられているか</p>
<p>救急体制</p>	<p>緊急時の連絡体制は十分か RICE処置など、応急処置についての理解また現場での経験があるか 人間はもちろん家畜用の応急処置に必要な医薬品は準備できているか</p>